

飯山市地方創生総合戦略会議 会議概要

1 会議名	令和2年度 飯山市地方創生総合戦略会議
2 日時	令和2年5月21日(木) 14時～15時50分
3 会場	市役所4階 全員協議会室
4 委員出席者 (順不同)	飯山商工会議所事務局長、ながの農業協同組合みゆき地区担当副組合長、 飯山市農業委員会委員、信州いよいよ観光局営業担当理事、 八十二銀行飯山支店長、信州大学教育学部助教、 県北信地域振興局長(北信地域振興局 地域振興課長代理出席)、 飯山市区長会協議会長、飯山市若者会議会長、飯山商工会議所女性会理事、 飯山市男女共同参画推進委員長 庁内本部(市長、副市長、教育長、総務部長、民生部長、経済部長、 建設水道部長、教育部長(子ども育成課長代理出席)、文化振興部長、 議会事務局長) ※欠席：飯山商工会議所青年部会長、長野信用金庫飯山支店長、 飯山高等学校生徒会長、飯山高等学校生徒会副会長
5 報道関係者	(株)北信濃新聞社、iネット飯山、北信ローカル
6 事務局出席者	企画調整係長、企画調整係主査

協議事項等

1 開会

2 市長あいさつ

(足立市長)

第2期総合戦略会議は6月下旬の策定を目指しており、本日で2回目の会議となる。前回の会議後、皆様からは多くの貴重なご意見やご提案をいただいた。本日の資料として取りまとめたので確認いただきたい。なお、いただいた意見については、庁内で協議し、計画へ反映させていただいたり、今後の取組の参考とさせていただきます。

本日は、人口ビジョンの将来展望を含め、総合戦略の素案について説明させていただく。本日の会議の結果を反映し、市民パブリックコメントを行いたい。

それぞれのお立場で、様々な角度からご意見をいただきたい。

3 経過報告

- ・3月19日 地方創生総合戦略会議
- ・4月20日 定住人口・関係人口に関するKPIの委員提案を取りまとめ
(説明 事務局)

4 協議事項(進行：会長)

(1) 委員意見取りまとめについて(資料：「委員意見取りまとめ」)

(説明 事務局)

(2) 素案について (資料：第2期飯山市総合戦略(素案)、人口ビジョンの改訂(将来展望の設定))

(説明 事務局)

(会長)

委員の皆様から意見を伺いたい。

※以下、「新型コロナウイルス感染症」は、「新型コロナ」と統一した表現としております。

(委員)

昨今の新型コロナショックで社会の仕組み自体を変えるのではないかと、既に変わりつつあるのかなと思う。具体的には、ワークバランスの見直しなどは社会の中では出ている。

新型コロナの収束期は誰も分からないが、新型コロナとともに、という視点で言うと、若者を中心として田舎暮らしへの関心が高まっているという声もある。実際にそのとおりだと思う。そうした中で、ピンチはチャンスという語弊があるかもしれないが、アフターコロナの地域戦略の一つとして、若者を飯山に呼び寄せるためには、やはり仕事と子育てがワンセットとなる必要がある。4つの基本目標それぞれ数値目標やKPIがあるが、それぞれが連携し、最終的なまち・ひと・しごと創生つながるストーリー展開ができればいいと思う。

(事務局)

新型コロナの先が見えないため、今回の戦略はその影響などは落とし込んでいないが、4つの柱を重点的に行うことにより、アフターコロナにおいても地方の利点を活かしたいという思いはある。いただいた意見をどういった形で計画へ反映するか検討したい。

(委員)

新型コロナに関連して。施策の方でKPIに外国人宿泊者数がある。新型コロナが落ち着いた後で、外国人観光客を呼び戻すということはとても大切であるが、かつてペストが世界で4回ほど流行期を迎えたという事実がある。新型コロナがこのまま収束するかどうか分からないことから、このKPIの目標値を新型コロナが落ち着いた場合とそうでない場合に分けて考えた方が良く考える。

(事務局)

この計画の策定後には、毎年検証会議を行う。現時点でコロナの収束期が分からないため、検証会議において、その時の社会情勢を踏まえて、KPIの見直しを行いたい。

(委員)

基本目標Ⅲの子育て支援・次世代育成の48Pで、KPIにタブレット端末の整備率がある

が、導入する端末の種類によって使い勝手が良いものやクラウドで保存しなければならないものなど、様々な問題があると思うが、どのようなものを整備するかしっかりと検討いただくほか、子どもたちがタブレットを持ち帰って使う事となった場合は、家庭のネット環境の問題も踏まえて支援などを検討すべきである。

また、防災マップの作成において、地域独自ということで、地域の危険な場所は地域が一番よく把握しているため、地域毎に作成するのは良いことだと思うが、ある程度、作成のルールなど、フォーマットを揃えたほうが他の地域と比べる時など便利である。

(子ども育成課長)

ICTの関係であるが、新型コロナの関係で既に国からの予算の裏付けがあり、今年度に全ての小中学生を対象にタブレットを整備する予定で進めている。もともと各学校においても3年から5年という長期の中で整備するという計画で既に配備が始まっているので、基本的には同じ仕様で配備を進めていきたい。

また、学校の休校に伴い、飯山市では遠隔事業などは進んでいないが、試験的に端末を使った学活を既に行っている。なお、家庭のネット環境については、学校の方でアンケート調査を行っており、貸し出し用のWiFiの無線ルーターの整備を進める予定。

ICTを活用して、実際に子どもたちにどういう形でやっていくかという大きな課題があるが、まずはハード整備とそれを使ったソフト対策を行っていきたいと考えている。

(総務部長)

地域の防災マップの関係であるが、今年度から地域ごと独自の防災マップづくりに取り組むと考えている。作成に際しては、地域の皆様に地図やハザードマップなどを示し、一緒に考えていきたい。

(会長)

補足であるが、ICTの関係はタブレットを一人一台配布する。問題は児童宅のネット環境である。飯山市では、ケーブルテレビ網が整備されており基盤はある。後はケーブルテレビに加入していただき、インターネットにお申込みいただければ、インターネットに接続できる。

防災マップであるが、地元だけでは困難なので、モデル的なものを用意してその地域がどのような自然の驚異があるかなどを示して市の防災担当と一緒に作り上げる。

(委員)

防災マップであるが、社会福祉協議会でも平成17年から市から委託を受け、各集落の災害時住民支え合いマップの作成に取り組んでいる。現在は更新の有無は様々であるが、作成率60数パーセントである。このマップ以外にも防災マップを作成すると、住民側が混乱してしまうのでは。

(会長)

今回作成するものは、洪水浸水区域などハザードマップを重ね合わせ、自分の地域や住宅がどういった場所にあるのか、いざという時にどのような行動をとればよいか考え、理解していただくためのものであり、別々に作るのではなく、(災害時支え合いマップと)重ね合わせるイメージである。

(委員)

当戦略案については、現在の総合計画とも整合がとれており、概ね良いと考える。後は、アクションが重要であり、事業を積極的に実施してほしい。我々も協力する。実施して失敗に終わっても次に向かえばよい。

市でも公民連携の専門部署を設けて公民連携を推進しているが、41Pの施策推進のポイントについてどのようなイメージか。

(事務局)

これまで、行政主導型の事業が多かった。しかしながら、財政面の問題、また、市民のサービス向上のため、民間のノウハウや資金を活かし、公共と民間事業者が連携して地域課題に取り組みたい。特に、未利用公共施設の活用や空き店舗対策などを重点に民間事業者と連携した事業展開を目指したい。

(委員)

将来展望において、具体的な数字(人口)が示された。25年後には13,000人。4年後には18,200人を維持する。社人研の推計より人口を確保するという事なので、これ自体は誰がどのようにやっていくんだという具体的な部分があればいいと考える。それがないと皆で顔を見合わせてしまうということになってしまう。

「儲かる農業」も含めて、若者に農業に携わってもらうなど、具体的な施策などを増やしていけたらと思う。

(委員)

他の市で、空いた家を確保して移住定住施策を展開している。また、空いた家を紹介するのと同時に、空いた土地もあるので、その土地も付け、農業を実施できるような、農業振興を合わせた形で実施できれば良い。

なお、農業は分からないという人には、農協の研修など農業指導をしながらやっていけば良い。その中で、利益が出る、儲かる農業を推進していくような方向が良い。そういった形で移住定住施策のPRを行ってほしい。

(経済部長)

アフターコロナの関係もあり、これから農業が見直されてくる時代でもあると思う。

先ほど話があった農業をやりたい方が新規で就農で移住して住宅を買うような際には、2年ほど前に支援策を拡大したが、200万円の補助金がある。また、住宅と農地をセットにしてという話があったが、3~4年ほど前だと思うが、農業委員会の方で、下限面

積を緩和して、2アールまで下限して取得できるようになった。

新規就農に関しては、技術的に難しいことについては、市と農協が一緒になり、新規就農の皆さんの農業支援センターを設立し、毎年2人ほど新しい方が入ってきている。普通は2年間で卒業であるが、1年間行い独立して新規就農者になっているのがここ数年の傾向であり、成果が出ていると思う。

「稼ぐ農業」という話については、この計画にもあるが、付加価値の付いた農産物、何をつくるかということもあったり、どのような販売方法があるかを今後セットで考えなければならない。専門家のアドバイザーの協力を得られるような施策も取り入れていきたい。

(委員)

定住人口と関係人口に関する委員意見を取りまとめであるが多く反映されている。

子育て支援の関係で、休日保育に従事しているが、3月くらいから利用者が減った。

利用する家庭は介護関係や病院勤務、サービス業が多い。新型コロナの影響もあると思うが、原因が分かれば教えてほしい。

昔は、保育園は日曜日が休みなのは当たり前であったが、保育に関しては土日休みは基本ではないと思う。様々な職種があり、それを社会が支えている。ついでに、土日保育はハードルが高いようでは親としては困ると思う。土日保育で子どもを預かってもらい、親が恐縮するようなことは飯山市から無くしていきたい。土日保育が当たり前と思えることが子育て支援の充実につながる。

また、子どもが都会にいるが、新幹線が開業してから東京の子どもはよく帰省するようになった。新型コロナの前からその友達が「飯山はすごい良い」ということで、都会の友達を飯山へ連れてくるが、空き家をセカンドハウスとして若者が借りたりできるような関係人口の仕組みをつくってほしい。

(子ども育成課長)

休日保育については、保育の充実ということで今回の戦略に盛り込んだ。なお、今年に入り利用者が少ないと感じている。保育所については新型コロナの影響で県からの要請もあり、保育が可能なご家庭については可能な限り家庭保育をお願いしたいという案内もさせていただいたことも要因の一つだと思う。

保育の充実に関しては、KPIに給食提供ある。今はお弁当をもってきていただいているが、通常保育と同様に制度に基づく給食提供をやっていきたい。それについては、保育を提供する側のマンパワーが必要である。そういった体制整備も含めて考えていきたい。

(会長)

先ほど、セカンドハウスという話があり、関係人口の取組をとということであるが、もともとは地方創生の総合戦略というのは日本全体で、人口は減り、それぞれの地域で人口が減らないようにということであるが、第1期の総合戦略は短い期間で策定したが、定住人口の視点で作成した。しかしながら、日本全体で人口が減っているので、どこか

が増えればどこかが減る。目標とすると自然減があるので移住者に取り組んだ。飯山市においても移住定住推進課を設置し、昨年度は1年間に120人の方の移住があった。長野県下の市町村では2番目程の多さである。ただ「移住」は住所を移した数であるが、飯山市の場合は、新幹線も開業し、自然が豊かで環境もいい。については、第2期では当然、定住人口対策にも取り組むが、それにプラスして関係人口というファクターを積極的に取り込んで飯山市の活力につなげるという目標である。

関係人口の創出・拡大の目標の考え方については分かりやすい指標が必要である。

飯山市が合併して最終的に合併が終わったのは昭和31年であり、その時の人口は4万人であり、ピークであった。

については、関係人口の目標として、定住人口と関係人口を合わせて4万人を超える取り組みを考えたい。そのような考え方が分かりやすいと考える。

今の時代、必ずしも4万人にすることは現実的ではない。については、飯山に魅力を感じて、何らかの形で飯山に関わっていただき、尚且つ経済活動や文化活動などに関与してくれる方、第2のふるさととして、関わってくれる方を関係人口として増やしていき、相対として4万人以上にしていって取り組みとしたい。

なお、関係人口から定住人口にもつながる可能性がある。第2期の戦略ではそのように分かりやすい目標を盛り込みたい。

(委員)

新幹線の飯山駅はガラガラである。そうしたコロナショックの真っ只中で策定する計画である。事務局からは見直しの際に検討するとのことであるが、現実的に今年が初年度で、例えば外国人宿泊者数の達成はほとんど困難である。また、民宿の皆さんが関わっていただいていた子どもたちの交流も春は中止となり、秋も微妙であり、状況が見えている。

については、現実的に今見えている日本や国際的な状況を少しでも最初から盛り込んではどうか。目標値を修正するというわけではないが、初年度の目標値においては、達成は難しい状況。その辺をどのように現実的な計画としていくか課題である。

また、国外では落ち着きを戻している所もあるが、オーストラリア・アメリカ、アジアなどそれぞれ環境が違う中で、同じように外国人に期待することは難しい。その辺についても検討が必要。

(事務局)

現実を踏まえ、新型コロナの影響を計画に盛り込みたい。どのように盛り込むかは検討したい。

(委員)

計画にある定住人口と関係人口のイメージ図は先ほどからの委員や市長の考え方の根底であり、素晴らしい考えであると思う。定住だけでなく、ファンとして交流してくれる方を増やす飯山市の戦略として進めてほしい。

なお、20Pの施策の方向性の部分であるが、今の時代の中で「若い女性」という表現がいいのか。もともとの分析において、出産適齢期の女性が減少していることからこのような方向性がでたと思うが。また、女性をターゲットに来ていただくという方向性は具体的にはどのようなものを想定されているのか。この部分については、後の施策の展開において、「女性にとって住みやすい」につながっているが、今の子育ては女性だけでなく、男性も一緒に行うのが当然の時代である。それらを踏まえて表現について検討してほしい。

(事務局)

どのような表現がいいか検討したい。

(委員)

今は新型コロナの影響で、特に経済面で大変であるが耐えて頑張るしかない。

(委員)

経済的視点でいうと、新型コロナの影響で宿泊業や飲食業を中心に資金面の調達に関する相談をいただいている。今月の借り入れの実行額はここ最近では大きな数字となっている。

これまで様々な方から意見が出ているが、新型コロナの影響により環境が変わってきている。この戦略でできるものとできないものが出てくる。できないものについてで言うと、観光関係はやむを得ないと思う。収束したら進めるという形になるが、コロナ禍でやるべき事業、例えば空き家の活用など、メリハリをつけてやるべきことは早くやるようにしなければならない。ロードマップを作り高低値をつけて実施されたい。

(3) 今後の予定

5月下旬	(委員意見反映後)	市民パブリックコメント
6月1日		議会報告
6月中旬		第3回地方創生総合戦略会議(第2期総合戦略(案)について)
6月25日		議会報告
6月下旬		策定

(説明 事務局)

(会長)

最後の会議においては、市民パブリックコメントの反映を確認いただく。

(4) 意見交換

※(2)で実施

(5) その他

※特になし

5 その他

※特になし

6 閉 会